

## 第 7 回 宇治市都市計画マスタープラン検討部会 議事録

日 時	令和 3 年 4 月 15 日 (木) 午後 5 時 00 分 ~ 午後 7 時 45 分
場 所	宇治市役所 8 階大会議室
出 席 委 員 ( 敬 称 略 )	部会長 多々納 裕一 職務代理者 森 正美 委員 岡田憲夫、野田崇、山本直彦、小出純子、後藤正明
議 題	1. 第 6 回宇治市都市計画マスタープラン検討部会のご意見について 2. 部門別方針 (案) について 3. 全体構想 (部会案) について 4. 全体構想のパブリックコメント (案) について 5. 地域別構想の進め方について

### 会議概要

部 会 長	「第 6 回宇治市都市計画マスタープラン検討部会のご意見について」, 「部門別方針 (案) について」, 「全体構想 (部会案) について」事務局より説明を。
事 務 局	資料説明
部 会 長	ただいまの説明について意見・質問等あれば
委 員	<p>全体構想の資料 3 を見たときに、部門別が資料 2 の内容は入ってきてると思うんですが、44 ページから 48 までの内容は、一般の方にはちょっと分かりにくいんじゃないかなというふうに思いますがいかがでしょうか。</p> <p>28 ページからそれぞれの基本的な方向と基本方針が書いてあり、その説明が、44 ページにまとめてありキーワードもまとめられている。45 ページから、緑色の枠内に書いてある文章というのは、ずっと後ろの 4-2 以降に出てくる文章ですよ。重複して出てきているように思えるんですけども、これが出てきたら、われわれには、これはこういうことで流れてくるんだなと分かりますが、初めてこれを見られる方は、一体これがどういう関係になってるかというのを理解するのはかなり大変なんじゃないのかなというふうに思います。</p> <p>この内容は、49 ページのこの一覧表の中の、「都市づくりの基本目標」の 4 つがそれぞれ、28 ページ以降に書いてある基本方針をもうちょっと細かく書いて、そこに〇×つければ済む話じゃないのかなとも思うんですが。このまとめ方は、これから部会で議論している分にはいいとは思いますが、初めて見る方には、理解するのが大変なのではないかという気がします。</p>
委 員	<p>どんな方向がいいのか、まとめ方はおまかせしますが、少し議論したほうがいいんじゃないのかなというふうに思います。それと併せまして、49 ページ、50 ページも、今までの流れの中でこうなっているのかもしれないんですが、なぜ「土地利用」と「交通」が二度こういうふうに出さなきゃいけないのがよく理解できない。既存の都市計画マスタープランとの関係で整理上こうしているというのではあるのは分かるんですが、資料 2 でこういうふうに書かれてるのは分かるんですが、資料 3 で部会案として外に出すものを、同じように二度「土地利用」と「交通」が出てくるようにする必要はあるのか少し疑問に思うのですが、いかがでし</p>

	<p>ようか。</p>
委 員	<p>今度外に出すときに、部会の理解としては、少なくとも前のほうで言った目的があり、それが今度は施策にどう対応するかということが分かっておく必要があるということでこういう整理を事務局がしてくれたと思いますが、ただそれをこの全体方針案という形でまとめられるときに、そのまま入れてみると、後ろで説明される施策の話が前に項目だけでいっぱい出てきて分かりにくい。こういうような議論、あるいは一部だけをえらく詳細に、この対応関係が出てきているようにも見える。</p> <p>資料編とか、解説編のような、何か本編とそれ以外があってもいい気がするんですよ。何が言いたいかという、多分いろいろ分析して、今までの施策がどこまでできたのかみたいなものを今日、せっかく作ってもらってるのに、こういうのもこれに載らないことになるんでしょう。だから資料編などがあったほうがいいかなと思うけど、ただ全体のストーリーを追っていかうと思うと、まとめ方の工夫はあってもいいかもかもしれませんね。</p>
事 務 局	<p>時系列が少しおかしくなっているところが確かにございますので、その辺りは事務局のほうでもう一度整理をさせていただきますのと、資料編でまとめるべきところと本編に入れるべきところは再度整理をして、分かりやすく表現できるようにまとめ直したいと思います。</p>
委 員	<p>順番とか並びとかが少し分かりにくいかなと思ったんですが、市民の方への説明用に概要版を作られるのかなと思ったんですけど、そういうわけではないんですか。概要版というか何かダイジェスト版みたいなもので、1枚では納まらないかもしれないですが、市民へ説明する用のペーパーがあって、これで説明していくという流れを考えておられるのかなと思ったものですから、そこの話を議論されるのかなというふうに勝手に思っています。そこはどうなのかなと思いました。</p> <p>私自身もいろいろ市民の方へ説明する資料とかを作るとき心掛けてるのは、もちろん大人の方向けの資料だけれども、中学生が読んでも分かる程度と言ったら失礼だけれども、子どもたちが読んでも分かるような文脈のほうの方が大人もより分かりやすいのかなというふうに感じています。</p>
部 会 長	<p>特に今までの成果等も考えてみると、改訂をしているところで新しく付け加えたり、もしくはその内容を拡充したりすることの根拠みたいなものを少しご説明いただいて、その上で、今まで議論しました4つの目標みたいなものと、今回の施策との関連性みたいなものを少し丁寧に整理いただいて、それから変えたものがどうであるか、これは資料2の段階ではそういうふうな形でまとめられると思う。この資料2の段階のところまででどうでしょう。まずそこを詰めてから、資料3の話に行ったほうが建設的かなとは思いますが、よろしいですか。</p>
委 員	<p>「都市防災の方針図」で、たまたま目に付いたところを申し上げて恐縮なんですけれども、徳洲会のところに、前の見直しで、「医療、福祉施設等促進エリア」というのを入れたんですけど、今回の案でも促進エリアになっていて、ある意味既に整備済みなのかなと。図の旧のところでは、途中で徳洲会のところ、農地からそういうエリアに指定して変えたという記憶があって、良かったのかなと思うんですけど、新でもさらにそのまま促進エリアになっているので、今後さらに充実させていくというイメージなんですか。</p>
事 務 局	<p>まだ全ての整備が終わっていないところもありますのと、今年度から作りました福祉の計画</p>

	<p>で、徳洲会は地域包括ケア推進の関係で、比較的评价できるともありますので、そういった取り組みも頑張っていたきたいなというところもございます。取り組みが続いてるとわれわれは認識しておりますので、促進エリアという言葉を使わせていただきました。</p>
委員	<p>病院の機能維持のためにも、少なくとも電源施設とかは2階以上とか、浸水面以上とか、そういう規制をかけていますよね。都市計画的な規制が入っているということではあるので、そういうエリアが書いてあるというふうにも言えなくはないとは思いますが、それがこういう名前になっているということですか。条例上か何かで規定されてるんですか。</p>
事務局	<p>特に規定されてないと思います。確かに作る時の思いが濃く影響された表現にはなっておりますが、浸水エリアの中に孤立するエリアでもあるので、まだ取り組むべき課題が残されてるエリアと思っております。それとまだ病院とか医療、福祉のサイドからも、今回コロナの関係もありますので、もう一度病院の在り方というのを再検討しなければならないというのがあります。そういった意味では、整備促進という言葉がまだ生きてるのかなとは思っております。</p>
委員	<p>今のご指摘は結構大事だと思うんですけど、整備促進という言葉で、位置付けといいますか、ここでは今度は都市防災という観点から行くと、防災上まだ課題がある、それも含めていろいろ充実すべきだという意味合いも含めてこういうふうに位置付けているのだという、少なくとも認識上の確認作業が必要だと思います。これだけ読むと、どんどん整備して開発していくというような感じに聞こえなくもない。もちろんそれは質問が出たときにそういうふうには言えないのかもしれないが、要はここを整備するに当たり、いろんな条件とか前提があっただけで、その辺のところのフォローをすべきだと、そういう意味合いだと思うんですけどね。</p> <p>こういう議論を一回したことで、そういう意味合いも含めてのこういう名称なんですけど、防災上の課題はまだ残っている。残っているから、逆にここに書いてあるという意味合いも含めて確認しておけばいいのではないかと。</p>
委員	<p>ここに、本文中に書いてある通りだと思うんですけどね。地震や浸水時でも機能するような必要な措置を講じたこういう医療を促進する、あるいは一時避難所として活用できるようにするという担保をすることだと思っておりますので、この役割自身は変わらないから、それはそれでいいのではないかと。</p>
委員	<p>一時避難所とか避難地や福祉避難所としても機能するように整備すると、ここにもうたつてあるんですけど、それは本当にそうなのかという議論で、仮にそう書いてあればそういう話でいいということだと思っておりますけど、これは言い方を変えたら、黄檗公園等々も一時避難地や、あるいは福祉避難所になっているかどうか分からないが、そういうような避難場所としての機能は少なくとも持っているようですね。</p>
事務局	<p>黄檗公園、西宇治公園は避難場所になっておりますし、徳洲会病院のある医療、福祉のエリアにつきましては、駐車場は一時避難地であって、その中で併設している特養に関しては福祉避難所として防災計画に位置付けて、既に宇治市と施設で協定を結んでおりますし明確に位置付けはしております。</p>
委員	<p>8ページの部門別の方針の比較表とかで、今、赤字で「拡充」だとか「新規」だとかいうのを</p>

	<p>入れていただいた比較、これは部会用に見やすく入れていただいていると思うので、最終的にはこれは取られるんですか。</p>
事務局	<p>最終的には取ろうと思っております。ただ取ってしまうとポイントが分かりにくくなりますので、本編に入る前に、今回のマスタープランを作った改訂のポイントというのを少し本編の前に差し込むような形で整理できたらなというイメージを持っております。</p>
委員	<p>大事なところは改訂の概要みたいなことを少し書かれること。今日お配りいただいているのは、旧版とそれから改訂版を並べていただいているので非常に分かりやすいんですけども、この後に続く文章の中にも、たまに今回の改訂にあたってとか、軽く背景を説明して、こういうことを新規のところとかに書いた方が良くないかなとは思いました。</p>
委員	<p>16 ページのところの「公共交通」のところの上のところですね、「高齢化の進展に伴い何々しています」って書いてあって、現状認識が書いてあるのはここだけ、必要だったら取りましてみたいに言ってみましたけども、他のどこでも似たようなところは実はあって、多分「社会的ニーズの変化を踏まえ、」にしたら終わりです。それで「基本的考え方として」まで取るのであれば、それで見た目は合います。</p>
委員	<p>個別の論点になるんですけど、20 ページの「都市環境の基本的方針」の3 つ目、黄色でハイライトされてる「資源・エネルギーの有効活用」のところ、「低炭素社会の実現」とあるんですけど、都市とかで低炭素社会を言う場合、よく出てくるのが住宅の低炭素化とか、あとは交通に関して水素ステーションとか、何か電気を補充することとかよく出てくるんですけど、そういうことは触れられないのでしょうか。リサイクルとかよりも、むしろそのほうがしっくりくるような気もするんですけど。</p>
事務局	<p>太陽光発電とかそれくらいしか確かに書いているところはありませんでして、ちょっと宇治市の中でも取り組めそうな、誘導できそうなところというのは、環境部局とも確認をいたしまして、今おっしゃられたような視点でも言葉が入られるようでしたら入れてまいりたいと思います。</p>
委員	<p>参考意見として申し述べますと、この部門別方針、資料2の3 ページの、基本方針の整理で「多様な住まい方・働き方を支える都市づくり」、ここで一番最初に「新規」として、「生活利便性の維持向上による質の高い都市づくりを目指す」というのが入っていますよね。これ、私の印象なんですけども、本当は「持続的に発展する都市づくり」というのはもっと大きな問題であって、その1 つとして、個別の問題として「生活利便性の維持向上による質の高い都市づくりを目指す」となる、概念的には多分こうじゃないかとは思っています。ただもう一つの右との対応付けでいくと、「持続的に発展する都市づくり」というのは、ニアリーイコール都市の環境整備。だから都市の環境整備ニアリーイコール持続的に発展する。</p> <p>交通のところでも持続的な交通整備か何かというのが出てきてますけど、「持続的」という言葉は私から見ると少し不安定で、前から申し上げているように、本来、持続的発展は総合問題なんです。継続的に続けていくという意味合いが、限定的に使うことが可能だと思うんですけど、それが少し気になるということだけ申し上げたい。</p>
委員	<p>私の理解としては、本来、「持続的に発展する都市づくり」と言うなら、これのほうが「多様な住まい方」の上に来る。ただ、もちろんここは住まい方に関する都市づくりで、それ以外の</p>

	交通の問題というのも関係してくる。だから順番としては、「持続的に発展する都市づくり」を上を持ってきたほうが、広い概念を上を持ってきたというふうに解釈できるんじゃないかと思いますが、これは解釈の問題ですから別にこだわりません。
委員	「環境に配慮した都市づくり」とか、「快適な環境を維持する」とか、そういうことを入れたらいいということなんじゃないかと思うが、それだと字勢として弱い。
委員	言い出したら切りがないので、そういうふうに解釈するというでいいんですが、ただ、これから都市計画をするときに、「持続的発展」というのは最初に、うたい文句に出てくると多くの人はそういうふうに理解するだろうけども、ここで言うのはもう少し限定的な意味合いだとするならば、その限定的な意味合いというのが少し読み取れるようにもうちょっと言葉を足したほうがいいかも。そうでなければ、逆に「持続的発展」というのは先に来て、その抱えている問題というのは、具体的問題が出てくるときに読めるようにした方が良いでしょう。
委員	環境とかエネルギーのことを言いたいのに、「発展」という言葉でまとめたので、論理を否定するように読めてしまう。「持続的に発展」というのが広義すぎる。
委員	都市の持続性というと、都市計画そのものになってしまう。
委員	どっちにしても可ですよ。都市が地球にどう貢献するかという観点で見たら、「持続的発展」が上だが、都市の中で住んでる人の視点からしたら、それは自分たちのことが先に来たって別に悪くないと思うんですね。だから、どっちの領域が広いかというと、地球のほうが広いですから、そう見えるけども、都市の話をしてるので、だからここが例えば持続的発展、地球環境の持続可能性に寄与するとか、あるいは、寄与はちょっと大きいかもしれないけど、阻害しないとか、もっとありていに言ったら、SDGs を意識した街づくりということですよ。だからそういうような感じのことを書いておけばいいのかなと思います。 ただ、ここで言うところの多様な住まい方という観点、働き方という観点から見たときに、地球環境にフレンドリーな街というのも大事だよと、そういうメッセージですよ。そう考えると、それを全面に出す全体のインデックスじゃないから、そこは上を持っていく必要がないんじゃないかなとは思う。
委員	持続的発展と言うと、総合問題に受け取れかねない。だから、「持続的発展」という言葉をキーワードにしてこれからつくっていくときに、1つそこら辺の、委員の捉え方が不安定だと、またいろんな疑問も出てくると思うので、問題提起しました。
委員	こんな大きな言葉を安易に使わないようにということですよ。そうしたらここはどうしましょうか、「地球温暖化の防止に寄与し」ですか。
委員	地球環境の持続性に配慮したでいい。
委員	ここで基本方針が説明してあって、それに対応した都市構造の話がその後に全体としてあって、それから部門別というところで構造の話がもう一度出てきたりするんですよ。前のところとの関係で、具体の部門でどういう対応するかというところがこの44ページの表と、その後にいろいろ書いてある表なんだけれども、具体的にどの対応するかの中身はそれより後で説明されている。これ、解説みたいに全ての44から50ページを後ろに持っていったって悪くない気はする。
委員	45ページから48までの図、基本目標があり、それをブレイクダウンした基本方針があっ

	<p>て、キーワードを抽出して、後ろに出てくる部門別方針をキーワードで引っ掛けてくるような、そういう構造になってるんだけど、このページの段階で、下の基本方針、部門別方針が出てこないものだから、これは一体何なんだったと思う。後ろを見ると出てくるという、構図はなかなかトリッキーなので、一番後ろにまとめたほうがいいかなと思いました。</p>
委員	<p>あと全然違うこと言うと、よく SDGs に関係した書類書いてると、SDGs の目標、何番に対応してますみたいなことを各項目にラベル貼って付けてるじゃないですか。それでもいい気はする。SDGs をやれということではないですよ。ここの基本目標、例えば番号を振って、最初のやつは、「宇治らしさを活かした」が 1 とか、そういうやつで、ほんとはロゴがあったらもっとかっこいいですね。そういうのがあったとして、それを各項目に貼っておくだけでも視覚的に紐づけられていいような気もする。</p> <p>あるいは大きさ変えて、これが 1 番、これが主なやつとかでもいいし。それだけだと分かりにくいということだったら、若干説明として後ろにこういうものを付けといてもいいかなという気はします。あるいは対応表ではこうですよと。何かそういう少し工夫でもあれば、ダイレクトにこの部門別の方針の説明がスタートしてもそんなに違和感ないんじゃないかな。</p>
事務局	<p>分かりました。ページを増やしていっぱいにするより、単純にひも付けして追っていけるように整理をするほうがいいかと思しますので、今のご意見を参考に整理をさせていただきます。</p>
委員	<p>資料 3 の 25 から 27 がちょっと気になっていまして、24 ページまでは比較的文章で読んでもらう形式になっていて、そこから矢印で出てきたところが「これからの視点」という形なので、この 3 つを大きな視点としてやっていきますよという話まではまとまっている。その言葉の説明が 26 ページの図で、この図はぱっと見た感じだと、なんかダミー図みたいで、クオリティー的に中身がこれでいいのかな。</p> <p>例えば市民、事業者、市と書いてあるんですけど、何となくこれは、今のまちづくり協議会的なイメージで、ちょっと街の人が気になったら相談できますよみたいなことが書いてあって、事業者さんがどう絡むのかとか、この図があんまり掘り下げられてないような感じがして、ここについてまだ議論ができてないかなというのが気になっている。あと 25 ページは空いて、27 ページで基本目標に行くのに、視点から目標が書いてあるんですけど、もう少し説明があってもいいのかなという感じがします。</p> <p>視点と目標の関係みたいなのが、気になっていて、部門別の話ばかりずっとしていたので、後の方の話は結構してたんですけど、改めて今資料 3 を拝見すると、逆に周りがだんだん出来上がってきたから気になるのかもしれない。</p>
委員	<p>ここで主張してるのは実は順応的管理、あるいは適応的管理なんですよ。アダプティブマネジメントなんだけど、一番違和感を覚えるのは、それに関連する図が一切出てこない。今の図は、どっちかというと事業スキームのパートナーシップの絵なんですよ。ここで言うパートナーシップというのは、むしろ市民との協働と考えると入ってる図が合わない。</p>
委員	<p>環境計画とかで多分パンフレットあると思うので、そういうのを少し見ていただいて、それをここの空いてるスペースにせめて 1 個入れてほしいなと思います。例えば計画、もしくは仮設としての計画と書く。それで次は実施する。次にモニターと書く。その後、検証、それで次、対案とか改善とかそんな話出ますよね。それで今度は仮設の検証を本当はしながら、次に</p>

	<p>新しい施策が要るかどうかチェックして進めますという、そういうプロセスなんですよ。これは分からない時代なのでそうなんですよ。分かっていたら最初から計画が仮設だとは言わなくていいんですよ。だけど先が分からないので、取りあえず仮設を持ちながら何か手を打っていきますと、打った結果、今後どういうことになったかとかいうことを見てみたら、この仮設のとりの想定したような方向だったのか、全然違ったのか、それに合わせて急いで直さなきゃいけなかったら計画も変えますという、そういう意味が今の「適用的」とか「順応的」とかいう意味なので、そうだとすればここをやるという議論をちゃんと書いて分かるようにした方がいいと思います。</p> <p>そこをシェアしてもらうのがまず第 1 のこの都市計画マスタープランの大事なところなので、そこをご理解いただくように。それはなぜかと言ったら、生活そのものの基盤が変わってくる可能性もあるわけですよ。産業そのものも変わります。人口構成も変わります。そういう先の読めない時代にいるからです、ということなんですよ。そこら辺のメッセージが図で分かるようになっているとより良いと思うんですけど。</p>
委員	<p>事務局も多分、言葉を説明する図を作らないといけな思われたと思うんですけど、多分私たちが期待してるのは、考え方を図式化するっていうことなんですね。ただ、仮設とおっしゃったんですけど、行政的に仮設と言い切れるかといったら、研究的には言えるんですけど、もしかしたらその一定の目標とか、狭い意味では多分計画は計画なんだと思うので、それを絶え間なく、たゆみなく点検評価していくというプロセスをイメージしている。</p>
委員	<p>かなり先がはっきりした中で作ったプランなのか、そうでないのか、そこのイメージの違いがある。だからそのチェックとかが非常に重要になっている。</p>
委員	<p>そこにいろんな外部要因が入ってくるとか、多分それを取り巻くのも入れて概念化したほうが分かりやすいんだと思う。だからその図を見ると、この今回の都市マスの考え方が分かるよというのが、ここまで視点が書いてあるなら図があった方がいい。</p>
委員	<p>要するにある種 PDCA でいいんですよ。ただ、その辺の小さなサイクルで PDCA してサイクルを回すという意味ではなくて、それこそ例えば都市全体とか地区全体で、しかもコントロールできないこととか分からないこともいっぱいあるし、世の中いつの間にか変わるかも分からないし、そういう不確定な、環境とか周りの条件もいっぱいある中で取りあえずプランを立てて、そして回していきながら、点検しながら作っていく。</p> <p>だからバージョンアップするっていうことですけど、ただ、要は今までの、計画の考え方ってどっちかという、変えることが前提でいい加減なものを作るなという、考え方が結構あったんですよ。だからその中では変えるかも分からないということとを先に言うと、何となくあやしいことをやってみたいなふうに取られるし、それをずっとやってきた専門家としては、それは非常に抵抗があると思う。でも今のコロナの状況を見ても分かるように、やっぱり先のこととは分からないですよ。でも何にも手を打たないというわけにいかないから、取りあえず自分たちの見識とかいろんなことを踏まえて、多分これがいいだろう、現段階では最善を尽くして、でも最適かどうか分からない、最善を尽くして、取りあえずそのプランを提示するけども、でもやってからでないと分からないことはいっぱいあるので、その部分はしっかりとモニターして、そしてチェックして、そして手直しして、改善しそうな条件をもう一度変え直す</p>

	<p>か、バージョンを変えると、そういうやり方で適宜直していきますというやり方です。だからそれ、かなり根本的に違うんですけども、多分今回は一番の「みそ」は、そこが1つあると思う。ただ、これが書きにくいのは、要するにプロセスなんです。この3つの輪が並んで、みんなで一緒にやりましょうというのはこれです。これとは違うもう一つのプロセスの話なので、これPDCAがぐるぐる回っていくという絵を。</p>
委員	<p>仮説とか見立てとかが最初にあって、その次に計画があるんだけど、仮説に基づく、あるいは見立てに基づく計画があって、それで実施があって、その次に点検と書いてますけど、その点検の中身は仮説の検証なんです。その後、改善って書いてるんです。改善というのは、仮説を、そこは説明書いてないけど、仮説の改訂とかも含むんです。その改訂された新しい見立てに基づいた今度は計画っていうのが次になるという議論で、常に見立てし続けるみたいな、点検しながら見立てし続けるっていう、そういうプロセスを考えますというのが今のプロセス。もちろんそこにどういう人が関わってやるかみたいな議論もあるけども、さすがにそこまで書くと複雑になるので、今はそこはあまり言ってない。だけどそこをパートナーシップでやっていきますと、要するに、その見立てをどういうふうにするかという部分については、地域の皆さんとも相談しながら考えますと、それはまっとうですよ。そういうような話だろうなと思います。多分、これが、今後の都市計画のマスタープランの主流になるんだと思うんですけどね。</p> <p>図を考えてもらってるけど、そのときに場が変わることがほんとに本質的なんです。時間が変わるだけじゃないんですよ、場が変わるんですよ。だからそこが「見立て」なんです。だから、そこが本質的だけど、それを今の図で書こうとするとつらいかなと。あるいはこう分かれていく。イメージで今までサイクルがあり、分かれていくところの評価がこの辺でやるのか、この辺でやるのかみたいな話が、どっちかに分かれていく。だけど分かれるといっても、普通は状態変数1個ぐらいで考えて分かれてるので、それがどういう値を取るかで分かります。実は僕らが考えないといけないのは、その考える状態変数で次元が変わるとか、そんなことも考えられる。環境問題の話で20年前にそこまで酷かったかということ、環境汚染は重要だったけど、地球環境問題については今みたいに真面目でなかった。だけどこれから20年たったら、また全然違うかもしれない。そこは変わらないにしても、産業構造なんて圧倒的に変わっている可能性が高い。</p>
委員	<p>これはある意味で診断を前提にしているわけですけど、だからそういう、これをぐるぐる回していきますという言い方をすると、そういう何か診断するようなプロセスも含めて提案してるんだということが伝わればいいんじゃないかなと。</p>
委員	<p>事務局にお尋ねしますが、例えば5年とか10年とかそういう単位で点検していくんだ、あるいは診断していくんだということを書き込むことには違和感ないですか。</p>
事務局	<p>資料3の4ページのところで点検をするというのは書いているのですが、施策をコントロールしているのが総合計画ですので、そこと連携をするという意味合いでの点検をいれております。ただ総合計画では市長の任期に合わせて大体4年で中期計画という事業計画を切っています。しかし、4年では都市計画はそんなに進まないですし、なかなか変化を見切れないのかなと思ってます。マスタープラン自体が20年計画ですので、大きく点検するのは総合計画</p>



	<p>の変わるときにマスタープランの大きく点検をするところかなど。総合計画のそれぞれの中長期計画は、進捗の点検みたいな形になるのかなというイメージを持っています。</p>
委員	<p>それはいいけども、今は変化速いから、前の10年だったら多分それでいいんだけど、これからの10年は想像以上に変わりますよ。だから4年目には必ず診断はかけますと、必要なら改善するし、必要なればそのまま行きます、でいいわけです。だから「マスタープランの検証」とここに書いてる。</p>
委員	<p>今の議論の中では、概念の話をしているので、ここに時間軸は入れないほうがいいと思います。ここで大事なのは、時間軸というよりは場とか環境が変わるということのほうが重要だと思うので、ここと4ページをリンクさせるようなことは考えないほうがいいと思います。</p>
委員	<p>前のページは「マスタープランの検証」と書いてあるから、だから点検を診断じゃなくて検証に変えて、仮説の検証というふうにも書くことは書くので、だから検証に変えて、改善、改善のところは診断、改善にしときます、診断、改善とこうして、マスタープランをちゃんと点検して、改善が必要だったら改善かけますというのがこの4年ごとのサイクルであり、ほんとに変えるのは最後のときに必ず変えますみたいなことで、それでもいいと思いますよ。環境とか、内部環境、外部環境の変化に関する見立てとか、そういうような言葉を書いたらより分かりやすいかもしれません。見立てとか予測とかいう言葉です。予測というほどできないから、見立てなんです。</p>
委員	<p>見立てとか見通しとか、結局状況の場に対する設定とか読みとかそういうことですかね。そこは重要なので、私たちが今までやってきたことも、いっぱい過去データとか将来予測データを見ながら、一生懸命見立てつつ、今回都市マスのプランを作ってるところなので。だからその見立てという言葉に何が含まれてるかの説明があったほうがいいと思います。そこは何か、一般用語では何ですか、予測でもないけども、何かそういうことですよ。</p>
委員	<p>この下の題のところ、例えば、人口、産業、環境、かつこ内部環境とか、地球環境、技術革新、そういうものが外部環境。それがこの場を支配するので、この題のところそういう説明を書いておいて、それが時間的に変わるように書いて、もう一個次のところこう行きますと、書いても別に書けなかった。だけどそれについての見立てなんです。その見立てをどこに書くかなんで、計画の中の前にもう1ステップ書いて、この改善のところ回していくのか、もしくはこの外に書いてる見立て何とかという計画と書いて、回して、改善のところ来たときは、当然2回目のところは改善のところの前の検証のところで見立てしなきゃいけないんですけど。</p>
委員	<p>だから見立てとか仮説とかという言葉に対する従来行政の不安を払拭するとすると、見立ての前段階には、データベースが、要するに根拠に基づいた専門的な議論があってやっているということが、前段としてちゃんと手続きとしてあるよってことがあっていいし、そこが書き込まれていたほうが多分いいし、あるいはそこにこそまさにパートナーシップがあるべきだという。そこを多分1段書いた上で今の話があると、ただ誰かが思い付きで言っている話と誤解を避けることができるんじゃないかなと思うんです。</p>
委員	<p>最善をどう定義するか、要するに法律的な意味ですよ。でき得る限り、今考えられる手段、ものの中でできる限りやれることはやりましたという意味での最善ですね。</p>

委 員	最初に「見立て」というのはいい言葉だと思うんですけど。改善のところに、例えば「見立ての再構成」と書いてもいいのではないかな。
委 員	リスク管理の議論だとじっくりくるんだけど、都市計画は決定権者がいる一種の政治的意思決定ですよ。今のご議論の中で、その政治性というのはどういうふうに位置付けられるんですか。
委 員	この仮説のところ、仮説の計画が意思決定しないと決まらなくて、それで何かの施策を実施するので、そこまでは今までと同じです。だけど要するにそれが分かっています、完全にそれが正しいですとは今まででも本当は言えなかったと思うけど、ただそれを明示的にここでは出しましょうっていうことですよ。
委 員	最終的にどの見立てを採るかというところに意思決定があると思うので、そういう意味ではその前段が重要であり、市民の意見も入れたパートナーシップ的な形で意思決定をするのか、でも最終的にはやっぱり行政として決めなきゃいけないので、その間にどの見立てを筋として取るのかというのが、それこそ首長さんとか議会がそこで意思決定をすべきかと。
委 員	だからその事実認定だけなんです。自動的に何か答えが出るわけではない。予測は、自然回帰的な意味の予測ではなくて、もっと価値判断的な話なんです。
委 員	見立てもそうです。価値判断的のところもある。だから例えば、将来の主要な産業が宇治市でどうなるかということについて、これは今、断言できないですけど、自然科学だろうが社会科学だろうができないと思うんですよ。だけどそれについてはある程度の希望という。
委 員	今の時代は難しいんだと思うですよ。だから逆にそのどのサイクルで見直して、その4年ごとに、いや、これは見立てとして違っていたとか、やっぱり首長さんがそのところはしっかりと都度都度、腹をくくっていただくというか、選んでいただくというか、判断していただくというか、そういうことが必要なんだと思うんですよ。そうしないと、こういうふうに決まってるからといって、20年前に決まったことが何となく予定調和的に行えるなんていう時代ではもうないと思うので、すごくそこは重要なかなと思います。
委 員	今回一生懸命書いても、書いてる部分については前回も似たようなことを書いてるんだけど、実は結構大きいのは、変わるかも分からないということはある程度意識してこれは作りますよというメッセージをきちんと入れておかないと。そのためには、実はそのプロセスをどう出すかということも示さないと、姿勢的な分だけじゃなくて、それと持っていくプロセスというのはもう一つあり、この提案だというのが1つの大きな要素。でも常に必ずこれを決めるということは、必ず作る前提に、例えば市長さんなりいろんな人のまず前提があり、総合計画という意思が入り、かつ最後は、例えばわれわれが、いろいろ書いたのを審議会で決定するという自身も、これもある種の政治的決定でもあるわけで、でもただそこに入り得るという要素をちゃんと入れて、そのプロセスまで含めて、認めていただくかどうかというところが、ちょっとした違いだけど実は結構大きいんじゃないかなと思う。
委 員	一旦政治的な決定があり、それを見直すときは広く市民や専門家の意見を取り入れたいということですよ。
委 員	これは、非常に重要だと思うので、気になってちょっと調べたりとか、例えば都市計画法の法律に即してどうだということを考えたときに、不整合があるかということ、今聞いているのは、そう

	<p>いう変わるかも分からないということも含めて、運用の中で審議会で決めますということを受ける。</p>
委員	<p>確か都市計画道路の判決ありましたよね。定期的に調査をしなければならないというのは、もちろんそれに合わせて順応していくということなんだと最高裁も言っていますからね。</p>
委員	<p>都市計画法のそういう時代の研究者みたいになってきましたけど、都市計画法自体のそのベーシックパラダイムが、設計主義的に計画したものは実現させたいし、するという前提で、その前提がある意味もう成り立たないという前提から今話してる中で、調整しながら、現行法との擦り合わせを今してる感じです。</p>
委員	<p>行政決定というのは常に暫定的なものであるというわけです。例えば道路の都市計画決定したのも、見直ししているでしょう。それ自身が実際そうなっている。</p>
事務局	<p>確かに、都市計画法の中でも、変化は受け入れて順次変えていきなさい、というのは運用にも書かれていますので、今ご議論いただいているような内容は都市計画の中でも謳われていることだと私は思いますので、当然都市計画変更という制度は必要ですけど、整合がとれてる話だと思います。</p>
委員	<p>ただ率直に言って、相当面倒くさい話をしてるんです。よく言えば、色々作り込みをしなきゃならないことで手間が掛かる、やりとりもいろいろある、それを単なる手間と考えるか、それを含めて全部学習とか向上のプロセスだと考えるのかということ。はっきり言うと、多分具体的にいろんなことを思い浮かべたら、難儀やと思われるかも分からないけど、心配するのは、その辺のしっくり感がないのも含めてこの図になってしまう。ここで止まって何となく白紙状態になる。行政の方は大丈夫でしょうか。</p>
事務局	<p>確かに行政の手間は大きくて、財政的な問題とかさまざまな課題はあるのは事実です。ですので先ほど言いましたように、4年というサイクルで本当に、大きく変える変化に本当に対応できるのかといったら、実際のところ疑問はいろいろあるので、4年という変化を、将来に向かって続く変化と分析しきれぬのかどうか。</p>
委員	<p>点検するだけなので、逆に言ったらその4年がどんな4年かによると思うんですよ。だからたまたまコロナのこの年にドンピシャにそれが入った4年だったら、すごく大きく変えなきゃいけないと思うんです。でもそうじゃなかったら、ここは別にそのままという、ただチェックするだけの4年もあるかもしれないですし、それこそ首長さんが4年ごとに変わるわけでも多分ないと思うので、「そしたらそれは一応既定どおりでいいよね」、「はい」というだけの4年かもしれないですし、ただ、でも1回ちょっと立ち止まって見てみようかという確認はしたほうがいいんじゃないかという意味でおっしゃっているんだと思うんですね。4年ごとに全部書き換えるという話は、だったら20年の計画を作らなくていい。</p>
委員	<p>改善のところを見立ての再構成というふうに仮に今の図のところで説明を追加するとして、4年目というのは要するに、見立ての再構成が要るかどうか議論をするということですよ。だから全体で見ているフレームワークで見ても、今回は10年、20年たってからやったけど、生き残った項目や追加が必要になった項目もあるし、これは状況が変わっているからなんですよ。そこのところを4年に1回ぐらい点検するぐらいしたほうがいい。事業進捗、これだけ進んだというチェックをして、あと想定していたその人口の変化とか、高齢化、予想より</p>

	<p>も圧倒的に速いなどが、遅いなどが、産業構造も工業を取りあえず今考えたけども、それでは駄目だという議論が出てくるかもしれないし、これだってなってるかもしれないし。その辺のところは、その場のサイクルで一応チェックをしておかないと、20年後に急に直せと言われても、あのときに直しとけばよかったけど、今とてもじゃないけど対応できませんってなる気がします。</p>
委員	<p>その見立ての再構成は、これだけで5年ぐらい時間かかる。だから見立てしなきゃ、再構成しなきゃならないと気付いてから、ほんとにできるまでには5年ぐらい要る。結果としては、イメージでは、20年としたら、ど真ん中のまず10年ぐらいは1つのある種の折り返し地点です。折り返し地点のときに、急ブレーキをしても無理なので、そこでブレーキも踏まなきゃならないことが、もし分かるなら、その予兆はもっと前にある。その辺りからきちっと、慣性を切り替えるための、切り返しをやる準備というのはしておく必要があると思う。それが4年とか5年ぐらいの単位で点検をしながら、必要に応じて次の体制の準備をしていくことが必要。だから20年と言うけど、ど真ん中の辺で一回少し他の方向転換がある部分が出てくるか分からないということではないかと思うんですけど、それだけでもある意味でそうならざるを得ないところがいっぱいあると思いますけど、それ自身がかなりある意味で画期的なこと、あとから気が付いて変えるのではなくて、やっぱりそういうことを含めてシステムとして今提案してる。皆さん、なんかストーンと落ちるかどうかというのは、結構ここは大事だと思う。</p>
事務局	<p>確かに現実的なところで言いますと、点検というのは行政のほうでも事業を進める中で、この事業は進めるべきで、この事業はやるべきではないという現実的な点検をして、それに即した施策をやっていることは事実ですので、それを少ししっかり皆さんにも発信できるような形ですね。そうした意味では、4年ごとの点検をしていく中でそれを積み重ねて、またその検証も含めて10年ぐらいの単位でいったん改訂が必要であれば改訂をするとか、そういうのは今までの現実的なサイクルで考えてもそうなっていますので、それをもう少し見える形で行っていききたいと思います。</p>
部長	<p>「全体構想のパブリックコメント(案)について」、「地域別構想の進め方について」事務局より説明を。</p>
事務局	<p>資料説明</p>
部長	<p>ただいまの説明について意見・質問等あれば</p>
委員	<p>先ほどから出ている話と関係しますけど、市民の皆さんにお伺いしたいポイントは何なのか。これだけ見ると、多分1人の市民として戸惑うと思う。一番最後にマスタープランの意見等記入欄と書いてますよね。前回どうしたか忘れちゃったけど、今回改善するという理由と、そのもう一つ前にお伺いしたいポイント。例えば、こういうふうにならなっていたというふうには書いてるところがありますよと、こういう方針を立てて、それから今度は部門別で、地域別にこういうふうにしようとしていますとか、何か3つとか4つぐらい考えて、それとあるいはこういう、新しい順応型、適応型の管理、4つか5つポイントがあるとしたら、その辺についてちょっとご意見お伺いしたい。それ以外ももちろんあるから、その他の自由表記というのは、自由表記としてはこの意見、最後のところは分かるんですが、より、積極的に、しかも端</p>

	<p>的にレスポンスをいただくためには、そういうポイントを絞って、そこに対してちょっと違和感あるのかとか、その辺のところを少し数も含めてもらったほうがいいんじゃないか。</p>
事務局	<p>お伺いしたいポイントは、これからの視点のこの3つの点かなと思っておりまして、1つ目のこれからの視点のところに関しては、皆さんが描いておられるような右型上がりの社会の作り方というのは、もう今の時代では難しいですというところの再認識をもう一回持っていただいた上でご意見いただきたいなと思っております。2つ目のところのプロセスについては、確かにちょっとわれわれも図を、何を貼り付けたいか悩んだところがありまして、ここは大きな変化というところで、こういった予測できないようなことが起こるとというのが確実な計画のところですよというところを表現したくて付けたんですけど。3つ目のパートナーシップですが、宇治市が進めているところをもう少し分かりやすく伝えていきたいなと思っておりますので、今いただいたご意見で、聞きたいポイントを少し明確にした上で、自由に記述できるような点も入れながら、少しもう一度検討してみますので、またご意見いただけたらありがたいと思いますのでよろしくお願いたします。</p>
委員	<p>資料5の「地域別構想の進め方」は、構想作りというふうにしたほうがいいんじゃないかと思うんですけど、どうですかね。構想を進めるでもいいのかとも思いますけど、構想というものを今から作ろうとしているのか。それを含めて構想でもいいのか。</p>
委員	<p>これは半分興味もありますが、意外とこの議論の中で、あえて意識的か意図的ならざるか、どっちも含めてですけど、省いた都市計画区域以外の笠取とか炭山に行かれるんですね。われわれは考えないような別の反応が多分あると思う。もちろん、計画区域の外だからとか色々ありますけど、ただ景観問題とかいろんなところにふれるところあるし、まさにリサイクルだ、脱炭素化だとかだったら実はここは主役になる。だから皆さんに意見を求められるときの求め方を少し工夫しないとイケない。笠取とか炭山の方々の生活リズムは、都市の中にいる人たちと少し違うので、土日のほうが都合いい人がいたり、逆に土日では困るという人がいたりとか、そういうような問題がいろいろある。山間地域のところの方々がどんな意見を言われるのか、ただそれに対してどういうレスポンスを受けるのか、取りあえず意見を聞いておこうというふうな消極的な形ではなくて、むしろ少し周辺のことを含めて積極的ないろんなご意見をいただいて、ただし、もちろんそれがすぐにここに反映できるかどうか分からなくて、その辺の意見の聞かれ方に工夫が必要かなと思いました。</p>
事務局	<p>山間地域のほうですけど、この5地区の所の方々と意見交換をする場というのが実はありまして、これまでかなり意見交換をしております。この地域で問題になるのが、やっぱり交通手段ですね。高齢化に伴い、まちや駅まで行く交通手段がないということと、あとは高齢化に伴い農業の継続が難しくなってきた一方で、農振農用地という制限の中で土地利用ができなくなっているという問題があります。ただ、一方で唯一規制しているのが農振農用地ですので、山林の計画もあるんですけど、要は、不法投棄なり産廃の施設が建つリスクが非常に高いエリアでもあるので、それに変わるものを地域と一緒に考えましょうということで話はしてるんですけど、高齢化が著しく進んで、なかなかそういう議論をするという雰囲気にならなくなってきております。だからそういった意味では、まちなかの都市計画とは違う論点での議論になる可能性があります。特に公共交通に関しましては、炭山のほうで独自にボランティア輸</p>

	<p>送をされている方々が、地域の方々を乗せて自家用車で輸送するというものがあるんですけど、それを運輸のほうのそういう有償自家用運送の制度に認定をして、市も保険や運用費用の一部を支援するというのを今年度の予算から計上したところもございますので、そういったまちなかとは違う論点での今回作り込みになる可能性はあるかなという気がいたしておるのが今の状況でございます。</p>
委員	<p>SDGsのSで、空間整備計画を考えていくなら、むしろ今用意したところがもう一つ非常に重要になってきて、両方有機的にやっていると立ちゆかないし、人口減っていくからこそ、そこが大事だと。しかしもう一方でそういう脱CO2だとか、脱炭素だとか、いろんなエネルギーの再循環とかいろんな話出てくれば、そっちのほうはかなり重要になるので、これからは都市との交流の問題とかね。まさに交流は、今回出てくる延長線上でそういう話がいっぱいあり得ること。それからあそこは新住民が結構いる。逆に、絶対家は売らないという古い人たちなど、かなり価値観も違うけれど、そういう問題も含めて、要は、これからこの都市計画をもう一つ発展させていくときに、意外と大事で重要な役割を果たすようになるのかもしれない。その点、皆さん方も頭に置いていただけたら。</p>
委員	<p>だからそういったことも考えておいて、いろいろな変化のシナリオみたいなのも、これから見立てについて役立てる情報を取ってもらえるといいですね。</p>